

## 感染症情報 10月14日～20日

府下小児科196医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	597例(堺市	26例)
②RSウイルス感染症	464例(堺市	20例)
③溶連菌感染症	298例(堺市	33例)
④手足口病	147例(堺市	4例)
⑤伝染性紅斑	84例(堺市	12例)

府下インフルエンザ定点300医療機関(堺市29)から

インフルエンザ 70例(堺市 2例)

感染症報告数は前週比22.2%減の1,814件であった。

報告数の第1位は感染性胃腸炎で、以下、RSウイルス感染症、感染性胃腸炎、溶連菌感染症、手足口病、伝染性紅斑の順であった。

感染性胃腸炎は府下で前週と比較して10%減、堺市では32%減であった。RSウイルス感染症が府下で34%減、堺市で57例→20例(65%の大幅減)であった。府下の定点あたりは3.58→2.37である。溶連菌感染症は府下で前週と比較して16%減、堺市で36例→33例は8%減であった。手足口病は府下で18%減、堺市で5例→4例であった。伝染性紅斑は府下で35%減、堺市で16例→12例であった。

インフルエンザが府下で前週65例→今回70例は8%増で、定点あたり0.22→0.23である。堺市では前週3例→今回2例であった。

麻疹や風疹の報告はなかった。